

# 『哲学随想』～真善美聖の探究の扉～ を読まれて

■ 中曽根康弘元首相

拝復

哲学随想、有難く拝受いたしました。近来、珍しく貴重な、長年月かけた哲学思弁の成果を喜んで拝読させていただきましたが、全文精読に、約十日の夜間読書を要しました。カント哲学や、「絶対矛盾の自己同一」の西田幾多郎哲学や、プラトン、アリストテレス、以下、先哲の思想を総合消化の上に、自己哲学を構築されており、非常に読み応えがあるものでした。私は、以前の著述に、大宇宙生命哲学という我が粗考を唱えましたが、似ているところもあると思いますが、天川先生はどこかで教授でもやっておられるのでしょうか。

それでは、右、取り急ぎ、御礼御返事まで。寒さの折、どうか御自愛下さい。

敬白

■ 思風庵哲学研究所 芳村思風先生

この度は、天川貴之塾長先生の御高論「哲学随想」をご恵送賜り、誠にありがとうございました。新しい精神文明の創造が求められているこの歴史的現実において、全ての問題を、先入観念に支配されることなく、原点に返って探究する哲学的精神は最も希求されるものです。天川先生の深い真摯な御論究に、心からの敬意を表します。ありがとうございました。

■ PHP研究所 社長 江口克彦先生

この度は、天川貴之塾長の講義録「哲学随想」をお贈りいただき、ありがとうございました。すべての問題を、根本の哲学、理念、精神から問い直し、復興せしめてゆくという御主張は、全くそのとおりだと存じます。哲学無き政治、哲学無き経営、哲学無き教育があまりにも多すぎることによって、結局は日本の今日の混迷が生じているものと思います。しばらく海外出張をしておりましたので、お返事が遅れましたことを、心よりお詫び申し上げます。

■ 衆議院議員 大前繁雄先生

この度は、天川貴之先生の御高著「哲学随想」をご恵送下さり、ありがとうございました。歴史の試練を永く経て生き遺ってきた古典に最高の価値を見い出すご高説には剋目されるところ非常に多く、また、憲法、政治、経営、いずれの分野においても、帰するところ、「哲学」の背景なきものは浅薄という天川先生のご高見には全く同感であります。今後共、御指導のほど、宜しく願い申し上げます。

■ 岡崎研究所 所長 岡崎久彦先生

拝復前略

天川学長の「哲学随想」を拝見しているうちに、文意章暢達、論理明快、終わりまで一気に拝読致しました。この種の人間中心の正統的考え方は、国民の思想に裨益する所大と存じます。有難く御礼申し上げます。

草々

天川貴之先生

■ 九州大学 名誉教授 稲垣良典先生

謹啓

貴大学の天川貴之学長の御文章「哲学随想」を拝読いたしました。さきにも申し上げたと存じますが、私が理解しえたかぎり、天川学長の論述は、さまざまな知恵の泉から、よきものを、謙虚に、かつ公正に集めて、よりよきものを創造するという姿勢に貫かれており、大変感服いたしております。

又、書翰のなかで申しておられた「真実の意味における根本の形而上学そのものの復興」は、私自身、五十年の哲学研究の課題としてきたところでございますが、何ひとつ成果を挙げることができず、まことに痛恨の極みであります。何卒、天川学長に、小生の存念をお伝え下さいますよう、お願い申し上げます。

謹言

■ 神戸海星女子大学 教授 田辺保先生

拝復

天川貴之学長様の「哲学随想」を頂きました。博く、全世界、全歴史の思想的遺産を結集させた、比類のないスケールをもつエッセーかと存じまして、大変感銘を受けております。誠にありがとうございました。

草々

■ 元憲法学会 理事 小森義峯先生

先日は、天川学長の「哲学随想」を有難く拝受致しました。一般論、原則論としては、全くその通りであり、いろいろ教えられるところが多くありますが、さて、私が憲法学者として、「憲法典」の中に、「大宇宙の根本理念を個性的真理としてどのように応化し、具体的に表現して行くか」について、苦慮している次第です。天川学長にも宜しくお伝え下さい。

■ 北海道大学 名誉教授 宇都宮芳明先生

天川塾長の「哲学随想」を拝受致しまして、今回、京セラの稲盛和夫名誉会長が高く評価されて本として出版される運びとなられたとのこと、何よりのこととお慶び申し上げます。私自身も拝見致しまして、天川塾長の求道的精神に心を打たれました。

私も、哲学は本来こうした求道的精神によってなされるべきものだと考えており、私自身もこの精神にそって哲学しているつもりですが、しかし、現在の（専門家集団としての）哲学界を見ますと、なるほど西洋の文献について（あるいはそれをもとにして）精緻な議論が展開されてはいるものの、昔の西田幾多郎に見られるような求道的精神は極めて乏しいと思わざるをえません。天川塾長にくれぐれも宜しくお伝え下さい。

■ 東北公益文化大学 教授 間瀬啓允先生（元慶応大学教授）

天川塾長の「哲学随想」に目を覚ませていただきました。泉に清水が溢れる如くに、随想が言葉となって綴られていったのですが、「語り得ないものについては沈黙すべし。だが、私は沈黙を破って語り出す。何故か。語り得ないものからの問いかけがあったからだ！」。天川塾長には、そのようなモメントがあったの

でしょうか。

宗教哲学の立場からみれば、この「哲学随想」の髄骨が一貫して宗教多元主義であることに非常に好感を抱きました。

「善く生きる」ためには「善き社会」が欠かせません。「善き社会」を、いま私はコミュニタリズムに求めています。天川塾長はどんな社会に夢を馳せておられるのでしょうか。天川塾長に宜しくお伝え下さい。

■ 九州大学 名誉教授 稲垣良典先生

此の度は、天川貴之塾長の近著「哲学随想」を拝受し、御芳情、まことに厚く御礼を申し上げます。

智慧と真理の探究は、私共が人間として善く生きるために不可欠な営為であり、これこそ人間の「仕事」であると存じますが、この「仕事」を放棄して、いわゆる様々の仕事に埋没してしまうのが現実であります。御高著は、人間の最も大切な「仕事」をなしとげておられる証しであり、尊敬の念を禁じえません。

天川塾長に、くれぐれも宜しくお伝え下さい。

■ 大阪国際大学 名誉教授 岡本幸治先生(実践人の家元理事長)

天川貴之塾長の「哲学随想」の御惠送に与り、厚く御礼申し上げます。

その全体を見渡してみますに、一宗一派の宗教的教学や特定の思想家の教説に全面的に屈従することなく、広く深く哲学の王道を一筋に貫いた思索の賜物であることが、はっきりと読み取ることの出来る、近来稀に見る著述であるというのが読後感であります。

私は、若かりし頃、禪堂に在って、「一即多、多即一」の真理を少々垣間見ることが出来ましたが、一神教か多神教かという二分論などとは無縁の深い思索の跡をあちこちに発見し、共感するところが多々ありました。

日本人は、「真善美聖」の中で美を中心とし、それを土台として価値観を形成してきたように思いますが、このような普遍的哲学から更に進んで、二十一世紀の日本哲学のあるべき姿を具体的に示す実践哲学の結実を大いに期待してやみません。今後の御精進と天川哲学の大成を心から期待しております。